八丈管内の遺伝資源の収集・評価・保存

【研究概要】

八丈島に存在する貴重な園芸植物の品種・系統を維持し、有効活用に向けた試験研究を行うとともに、新たな栽培技術の開発に取り組む。

（１）パッションフルーツについて、曇天日を想定したLED補光により、樹の生育が遅い場合でも奇形花発生までの結実数を確保でき、奇形花発生率が低下する可能性が示唆された。

（２）レモンの根域制限栽培は、直植えに比べて収量が少なく、果実サイズが小さくなる傾向がみられたが、果実形質に問題はなかった。また、根域制限栽培により樹形を小規模に維持し続けることができるため、高齢化による労働力不足を補う栽培方法であることを確認できた。

（３）フェニックス・ロベレニー優良系統について、交配苗の育成を継続した。

（４）フェニックス・ロベレニーの切り葉における潮風害について調査した結果、塩分が葉に飛散後９時間以内に真水へ浸漬することで、葉先枯れ障害を大きく軽減できることが明らかとなった。また、強風による葉の揺れや葉同士の擦れなどが葉先枯れの一因と考えられ、特に西寄りの風を遮る防風林や防風ネットなど、圃場の防風対策が重要であることが判明した。